

# 市議会

# だより



2018年8月1日発行  
発行 仙北市議会  
編集 仙北市議会  
広報編集 特別委員会

6月定例会・議員賛否  
予算常任委員会  
一般質問  
総務文教常任委員会  
市民福祉常任委員会

P2  
P3  
P4~10  
P11  
P12

産業建設常任委員会  
クニマス未来館設計違算訴訟  
大曲仙北広域消防本部、大曲消  
防署新庁舎が完成・全国市議会  
議長会表彰・人事案件  
初議会を終えて・控室・編集後記

P13  
P14  
P15  
P16

■仙北市消防訓練大会(平成30年7月1日)





# — 6月定例会 —

平成30年度一般会計補正予算

## 定住対策関連予算（住宅新築補助、アパート家賃助成） 災害復旧関係予算など **4,248万円**可決

5月の市議会改選後、初の定例会が5月31日から6月22日まで、23日間の日程で開催されました。市議会では、「平成30年度一般会計補正予算」、「仙北市地域型保育事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正案」など計16件が審議されました。

議会初日には、「田沢湖クニマス未来館設計違算に係る和解及び損害賠償」についての案件が審議され可決されております。（詳しくは14ページ）

また、倉橋副市長の任期満了に伴う再任案件と田沢財産区委員の選任、人権擁護委員の推薦についても同日に可決されております。その後委員会審査を経て、議会最終日には、先に提案されていた一般会計補正予算に加えて、5月18日の大雨による農地や林道、公共土木施設の災害復旧事業費に関する補正予算も提案され可決されております。

採  
承  
認  
さ  
れ  
た  
議  
案  
・  
可  
決  
案

- ◇平成30年度仙北市一般会計補正予算（第2号）
- ◇平成30年度仙北市一般会計補正予算（第3号）
- ◇平成30年度仙北市生保内財産区特別会計補正予算（第1号）
- ◇平成30年度仙北市病院事業会計補正予算（第1号）
- ◇田沢湖クニマス未来館建築実施設計図書作成業務の設計違算に係る和解及び損害賠償について

- ◇仙北市地域型保育事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例制定
- ◇仙北市都市公園の設置に関する基準等を定める条例の一部を改正する条例制定
- ◇仙北市副市長の選任につき同意を求める案
- ◇仙北市田沢財産区管理委員選任につき同意を求める案
- ◇人権擁護委員の推薦につき意見を求める案

### 議決結果/議員賛否 平成30年 第4回 仙北市議会定例会(招集日:5/31 最終日:6/22)

凡例：賛→賛成、反→反対 退→退席 欠→欠席（議長は法律で定めるケース以外では表決をしないことになっています）

議案番号	会派及び氏名 件名	議決月日	議決結果	議決結果															
				黒沢龍己	小林幸悦	高橋豪	田口寿宜	八柳良太郎	真崎寿浩	高橋輝彦	武藤義彦	門脇晃幸	熊谷一夫	平岡裕子	小木田隆	阿部則比古	荒木田俊一	伊藤邦彦	高久昭二
議案第71号	無記名による投票票決の要求	5/31	不成立	反	反	反	反	反	反	反	反	反	反	反	反	反	反	賛	反
	仙北市副市長の選任につき同意を求めることについて		同意	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	反	賛
議案第74号	平成30年度仙北市一般会計補正予算（第3号）	6/22	可決	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	欠	賛	欠

※全会一致で可決された議案については議員賛否を掲載しておりません。

# 本会議・予算常任委員会 6月定例会で審議された予算

主な内容	次世代定住支援事業費補助金	810万円
	若者・移住者が行う住宅新築への補助制度	
	農業用マルチコブター導入事業費等補助金	226万円
	農業用マルチコブターの導入等への補助	
	観光復興交付金関連事業	△2,535万円
	広域観光事業費 予定していた国の交付金が削減された	
公共土木施設災害復旧費	3,733万円	
豪雨災害の復旧（市道夏瀬線・桧木内川河川公園）		
病院事業会計補正予算	△1,106万6千円	
角館総合病院の事務や窓口業務が業者委託から直営へ		

## ここが知りたい 議論のポイント

平成30年度補正予算 主な質疑

### 放課後児童クラブの移設現状は

**質問** 西明寺小学校の放課後児童クラブ（マロンクラブ）を旧JA大豆センター（西明寺）へ移設することだが、現在の利用状況、移設時期は？

**答弁** 現在の定員24名に対し、3月時点で54名の申し込みがあり、全てを受け入れることに対応している。これまでの1日平均利用者は31・1名となっている。小学校で利用できるスペースは40㎡程度で大変狭く、旧JA大豆倉庫へ移設するものである。新たな施設の利用開始は9月1日を予定している。

**質問** また、新たな施設と小学校間の移動は安全が十分確保される必要があるが対策は？

**答弁** 小学校1年生・3年生については支援員が学校まで迎えに行き、道路横断などを支援し新たなクラブまで安全に誘導することとしている。保護者にも既に説明している。

### 観光復興事業費はなぜ大幅に減額されたのか

**質問** 各種広域インバウンド事業等が予定されていたが、東北観光復興交付金が大幅に減額されたのはどういう理由からか。また、事業そのものはどうなってしまうのか。

**答弁** 提案した事業について、観光庁の査定で事業効果や必要性について認められなかったことが交付金削減の理由として挙げられる。今後、計画通り行うもの、見直すものなど、連携する市町村と協議しているが、可能な限り実施できるように努めたい。

### 市立角館総合病院 窓口・事務

**業者委託から直営にする経緯は**

**質問** 委託業者選定時にプロポーザル参加者が全て辞退した理由は何か？

**答弁** 3社を選定したが、2社が先に辞退し、残った1社と協議した中で、業者側から病院の希望に添えない

### こんな理由で賛成です

#### 賛成討論

- ◇放課後児童クラブ（マロンクラブ）の移設について、JAから大豆センターを賃借する予定だが、賃借料の在り方、基準については明確にするべきである。今後JAとの協議を進めて頂きたい旨の意見を付して賛成。
- ◇放課後児童クラブは児童にとって学びの場でもある。充実を求めることを付して賛成。
- ◇健康増進事業は市民生活にとって非常に重要であるため更なる充実を求め賛成。

という理由で辞退の申し入れがあった。窓口・事務業務等における接遇改善などを要望したが、そうした部分で業者側の考えと違ったことが辞退につながったのではないかと考えている。

**質問** 業務を直営とすることによる影響は？

**答弁** これまで患者からの苦情や要望は一度委託業者に伝えて、そこから委託業者スタッフに周知される仕組みであったが、直営とすることで直接窓口スタッフに指導することができると、迅速な接遇改善等が図られる。これまでの委託業者のスタッフは病院側で引継ぎ、業務に支障が無いよう進めたい。今後は直営方式を行いつつも、業務委託した場合との比較を続けて行きたい。

## 田沢湖郷土史料館は今後どうするのか？



蒼生会 田口 寿宜 議員

市長

解体し、跡地を駐車場で活用したい。

### 田沢湖郷土史料館の今後について

**質問** 田沢湖郷土史料館に残っている貴重な物品や、田沢交流センターに保管されている物品は今後どうなるのか。また、郷土史料館の解体計画について伺う。

**答弁** 公共施設等マネジメント事業による解体計画を策定し、11月中に解体する。解体後、田沢財産区に用地を返還し、駐車場等に活用したいと考えている。今後財産区と協議をしたい。

**答弁** (教育長) 物品等につ



■解体が予定されている田沢湖郷土史料館

いては、北浦史談会の指導と協力を得ながら、適切に管理したい。

### 近未来技術実証特区の今後の展望について

**質問** 「ドローンバレー構想」はまだ持っているのか。近未来技術実証特区について、今後の展望をしっかりと示した上で進んで行くべきではないか。

**答弁** 特区指定の強みを活かし、農業用マルチコプター資格取得支援事業を実施している。今後も、ドローンバレー

の中心的人材の育成を目指し、雇用・産業の創出につなげていきたい。

### 高齢者が投票に行きやすい環境づくりについて

**質問** 高齢化により、投票に行きたくても行けないお年寄りが増えている。今後も進んでいく高齢化社会において、投票に行っていたり環境をいかにして作れるかが課題である。しっかりと対策を講ずるべきではないか。

**答弁** 高齢化が進む本市で、投票や買い物・通院等の移動

手段を確保する為、地域公共交通会議で更に検討していきたい。

### 地域運営体について

**質問** 地域運営体の活動もようやく形が見えて来た。財政が厳しい中において、地域の核としてもう一つステップアップするには、財政状況を考慮しながらも別の形での予算措置を考えていく必要がある。今後、どのように進めて行くのか。

**答弁** 今後も地域運営体の活動を支援する。諸課題は行政だけで解決出来ない。地域と行政が手を携え取り組む過程を含め、その行為こそ、私が希求する地方創生の在り方だ。一方で活動財源の確保に難儀している。地域運営体には、新たな公という役割で、例えば、地域の公共施設の管理運営や地域デザインの立案など、活動範囲を拡大いただければ、業務委託相手としての協働にも可能性が開ける。

早期に協議を始めたいと考えている。

(高久昭二記)



■今後の活用が期待されているドローン

# 角館駅の東西自由通路事業はいつ再開するのか

蒼生会 高橋輝彦 議員



市長 内川橋の事業完了後に実現したい。

## 秋田内陸縦貫鉄道(株)の今後の支援について伺う

**質問** 秋田内陸縦貫鉄道(株)の支援は赤字が解消になるまで続けるのか。また、さらに老朽化する鉄道設備改修計画などの具体的な協議は行っているのか。

**答弁** 赤字が解消されれば負担がなくなる可能性もあるが、赤字負担や設備更新等は、平成22年の四者合意に基づき対応している。赤字の垂れ流しは決して良くなく、経営改善に向けた取り組みは、実行に移せるメニューをもって進めたい。

## 除雪支援の拡大を求め

**質問** 高齢者世帯等除雪支援事業で、大雪の年は除雪利用券を増額するなどの柔軟な対応はできないか。また、新たに予算化された各地域センターの地域振興事業費は高齢者の除雪にも運用出来ないか。

**答弁** 今後も積雪量や雪質など地域ごとの細やかな状況把握を行い、支援の対応を再度

検討していきたい。地域センターの事業費は、災害対応や市民生活の不具合にスピーディーに対応するためのものであり、高齢者の除雪対応は本事業枠とは別に考えたい。

## 角館駅の東西自由通路整備事業はいつになるのか

**質問** 平成24年頃から角館駅の東西自由通路整備事業がスタートし、途中で内川橋の改修事業を優先したが、内川橋の見込みを伺う。また、東西

自由通路整備事業再開の考えはあるのか伺う。

**答弁** 内川橋の改修事業は、新角館庁舎竣工後の予定であり、平成33年度実施設計、翌年度工事着手、完了年度は短くて5年くらいかかる。しかし、これは交付金の配分率によつては終期の設定見込みが困難な事業と考える。東西自由通路は何とか実現したい思いは持っている。

## 熊の被害防止対策強化を

**質問** 今年度から熊の捕獲権

限が市町村に移譲されたが、昨年度より強化した熊の被害防止対策はあるのか伺う。また、狩猟免許新規取得の支援や現在免許保有者の維持経費の支援について伺う。

## 秋田新幹線防災対策トンネル整備市の負担は?

**質問** 秋田新幹線防災対策トンネル整備促進期成同盟会を立ち上げるとのことだが、この事業に沿線自治体の負担金などは発生しないのか伺う。

**答弁** 自治体の負担金等の財政スキームはまだ決まっていない。同盟会では負担金が生じないよう要請していく。

(門脇晃幸記)



■設置が待たれる角館駅の東西自由通路事業



伊藤 邦彦 議員

仙北市庁舎の受動喫煙防止対策は。

市長 年内には方針を定める。

**西明寺中学校野球場のバックスクリーン設置は消えた約束か**

**質問** 西明寺中学校野球場のバックスクリーン設置については、競技の安全上から、これまで何度も要請し、4年前に予算化すると聞いたが、未だに実現に至っていない。どうなっているのか。

**答弁** これまで、学校施設の要望をできるだけ実現しようと努力してきた。しかしながら、市内の義務教育施設は老朽化が著しく、子ども達の安全安心を確保するには、まず、校舎や体育館改修を優先



■バックスクリーンの設置が待たれる西明寺中学校グラウンド

している。バックスクリーンについては、財源確保をさらに拡大し可能性を検討するため、もう少し時間をいただきたい。

**中学校のテニス練習環境の整備を**

**質問** 中学校のテニス大会は人工芝で行われるが、仙北市内には人工芝で練習できるテニスコートがなく、子どもたちがかわいそうであるがどう思うか。

**答弁** 仙北市内の中学校が、大仙市に行くと、人工芝で練習していることは承知している。人工芝のテニスコートを整備したいが、学校の安全対策より優先順位を上位にできない現実がある。財源的な課題もあり、各方面の意見を伺いながら検討し、子どもたちにより良い環境を提供できるように努力したい。

**市営落合野球場の改修について伺う**

**質問** 落合野球場の改修工事はどうなっているのか。野球関係者の意見を聞きながら進めるべきと思うがどうか。

**答弁** 昨年度に基本設計業務を終え、9項目の改修箇所を



■全庁舎内の受動喫煙防止対策を

抽出した。今年度は関係団体と協議をし、改修箇所や予算・補助金等を精査する。平成31年に実施設計、平成32年に工事着手を予定している。野球関係者の意見を聞きながら実施設計に反映させていく。

**仙北市庁舎の受動喫煙防止対策はどうなっているのか**

**質問** 国も県も2020年の東京オリンピックまでにクリーンな空気を作るために、受動喫煙防止対策に力を入れている。仙北市も市民の健康

を守るうえで検討すべきと考えるがどうか。

**答弁** 仙北市は3庁舎とも、まだ建物内や出入り口付近に喫煙所があり、受動喫煙防止対策は十分ではない状況である。

地方公共団体は、民間等への受動喫煙防止対策を指導すべき立場にもあるので、3庁舎の受動喫煙防止対策として、敷地内禁煙か屋外に喫煙所を設置するか年内に方針を定める。

(高橋輝彦記)

## 旧角館総合病院の跡地利用策は。

高久 昭二 議員

市長 全て解体し売却も含めて検討している。

**黒沢工業団地（生保内）に企業誘致が進まない理由は**

**質問** 成果のない企業誘致。市長の責任は。

**答弁** 責任は感じている。引き続き企業誘致に向けて積極果敢な取り組みを続けて行く。

**質問** 現時点での誘致状況は。

**答弁** 今対応している企業は、全国規模の食物工場を計画している企業で、会社訪問や企業側からも仙北市に訪問を受け、進出に向けた諸条件に関して、具体的話し合いを行っている最中である。

**質問** 賞味期限のある食品会社にこだわっているが他職種の選択は。

**答弁** 仙北市の清浄な水と空気の中で、まじめに取り組む農家の方々と連携することで、食品産業のクラスター化ができるの思いがある。物流には交通網の整備が不可欠であるが、食品産業を中心に他の分野についても幅広く誘致を進める。

**太陽光発電施設事業の問題点と反省点は**

**質問** 地域住民の理解のもと

に進められた事業か。また、民間事業者を支援しすぎではないか。

**答弁** 住民説明会を開催し、市民、団体の皆さまからの指摘に応えながら、防災協定書も締結し、環境保全として水質検査も継続実施している。

市としては、民間企業が行う事業という設定の中で、必要であれば許認可の審査や融資をさせていただくという立ち位置である。

**質問** 黒倉遺跡の試掘は正しかったのか。



■稼働中の太陽光発電施設

**答弁**（教育長） 県の文化財保護室職員立会いのもとで、敷地内六ヶ所の試掘調査を実施したが、遺構・遺跡が出てこないことから、県よりゴーサインを頂いた。

**学校給食費半額助成の実現は**

**質問** 子育て支援をさらに強化する学校給食費半額助成の実現は。

**答弁**（教育長） 給食費の滞納対策を最優先に取り組む。給食費助成は、次代の子どもたちのためにも議論が必要と考える。

**旧角館総合病院の跡地利用策は**

**質問** 管理棟も含め全て解体なのか。また、その後の活用をどう考える。

**答弁** 病院事業の資産である建物を、市が無償で譲り受け全て解体したいと考えている。

来年度にはアスベスト除去、解体工事等に着手する予定である。

土地の跡地利用については、売却を含めて複数案を検討中である。

**質問** 解体費用をどこから捻出するのか。

**答弁** 基金や地方債の充當を予定している。

**質問** 使用できる公共施設は利用すべきでは。

**答弁** 管理棟を残しても償却しても費用が伴う。できる限り、市の持ち分を減らし、売却により財源を確保したい。

（武藤 義彦 記）



■解体が予定されている旧角館総合病院

インフラ整備など市民要望に  
どう応えるのか。

稲田修 議員



市長

限られた財源のため緊急性の  
高いものから行っている。

**市民要望に応えるための予算編成は、今後どうあるべきか**

**質問** インフラ整備を始めとした市民の要望、苦情処理にどう対応するのか。担当に比べ予算がないと言われるが、どの程度市民の声に応えているのか。

**答弁** 市民ファーストの想いで対応しているが、苦情や要望が非常に多い。予算編成では、道路橋梁の整備、上下水道の未普及解消等、緊急性が高い事業を優先して措置しているが、社会資本整備交付金、

合併特例債など、限られた財源の中で行わざるを得ない。

一方で今年度は、地域センターに600万円の予算措置をしており好評を得ている。

これは道路や橋梁に限らず、地域の方々からの要望や災害復旧など、緊急に対応すべき事案に、迅速、柔軟に対応することを目的としたものである。

**質問** 道路舗装や、側溝整備、除草作業などについて、地域運営体にある程度任せられることはできないのか。また、道路清掃車両は購入できないのか。



■迅速な修繕が待たれる道路破損箇所

**答弁** 基本的に運営体はソフト対応が主であり、ハード部分は市で対応しなければ難しいと考える。道路清掃車両については今後検討する。

**民間企業等との連携協定について**

**質問** これまでに締結した協定の件数およびその目的は何か

**答弁** これにまで締結した件数は合併前からのものを合わせて85件ある。相手別では民間企業や団体が38件、行政機関が37件、教育機関が8件、住民団体が2件である。目的別では、災害協定が42件、事業連携や協力が32件、姉妹都市交流が6件、施設の維持管理が3件、公害防止が2件となっている。うち現在有効な協定は38件である。

**質問** これらの協定が、市民生活に与えるものは何か。また、費用対効果の観点からはどう分析しているのか。

**答弁** 民間企業との事業連携は薬用植物栽培や桜保全活動、新たな事業実施も含め、産業振興に寄与している。また、姉妹都市として大村市や富士河口湖町、常陸太田市などと定期的に交流事業を行っ

ている。歴史や文化の掘起こしを通じ、子ども達への教育や、人的ネットワークを形成できている。費用対効果については、これら協定がほぼ経費不要なものであり、測定要素が不足しているため検証は難しいが、中には事業連携で寄付をいただいている企業もあり、その額は5年間で500万円となっている。

**健康寿命の延伸を**

**質問** 健康増進のため市が健康事業を行うことも大切だが、一方で市民自らが、自分の身体を作ることがより重要であると考えられる。ジョギングコースやラジオ体操ができる広場など、高齢者がより運動しやすい環境の整備について、継続して行う必要があると思うがどうか。

**答弁** 個人の健康づくりを社会全体で支えて行くという環境整備が重要と考えている。31年度からの新たな健康計画の中で、必要な施設の整備についても盛り込みたい。

(小木田隆記)

## 秋田内陸線の施設整備を。

養生会 武藤 義彦 議員



市長

## 駅舎に付帯しているトイレ自体の改修についてしっかりと対応をさせたい。



■施設整備が求められる秋田内陸線

**今後、秋田内陸線の経営はどうなるのか**

**質問** 沿線の住民は、公共交通区間の空白地帯になってはいけないと数々の活動を展開している。しかし、利用機会がない地域の方からは、赤字路線に長い期間投資するのの疑問の声がある。三セク鉄道の平成28年度経営状況は、全国33社のうち赤字化は6社のみである。秋田内陸線は6番目の赤字経営になっている。今後どのように経営していくのか。

**答弁** 目標としている経常損益2億円以内は、3期連続達成できている。高校生の定期券利用者は減少している。定期外利用の拡大策としてお座敷列車、イベント列車、新たな周遊ルートの企画・発信、交通事業者との連携による広域企画の充実を図りたい。地域の皆様の生活の足として、また、インバウンドも含めた魅力ある観光路線として、二本立てで運営していかねばならないと思っている。

**質問** 駅舎は50年経過し老朽化が進んでいる。維持管理を今後どのように進めていくのか。

**答弁** 駅舎、トイレの整備維持管理の対応について、取り組みが必要だと社内でも話が出ている。できるだけ需要の多い場所を早期に改修できるように努めたい。

### 買い物難民・買い物弱者支援策は

**質問** 高齢者にとって、日常的な買い物ができなくなることは、生鮮食品の確保ができないばかりではなく、売り場での会話や自分で選択する機会を失うことになり、精神的

な健康維持に支障をきたすことになりかねない。支援が必要な地区の現状を把握しているか。

**答弁** 多くの方々から要望を聞いている。

**質問** 待ったなしの状況にどう応えるのか。

**答弁** 早期に制度化する必要があると強く感じている。田沢、桧木内、上桧木内地区の方々とは、早期に話し合いの場を設けたい。

### 学校適正配置 地域住民との充実した話し合いを

**質問** 対象地域での意見交換会や学校間交流の具体的な内容について伺う。

**答弁** (教育長) 11月下旬まで3回実施する。1回目は地区、対象学校ごとに5か所で行う。2回目は8月下旬、3回目は11月下旬としている。宿泊合宿や行事の合同実施などによる。子ども同士の交流を積極的に行う。

### インフラの維持・修繕に予算の増額を

**質問** 市民の苦情は、インフラの維持・修繕に係ることが多い。今年度から地域センターに災害や様々な修繕などに向けた地域振興事業費が計上されたことの効果が期待している。維持修繕費の拡充が必要と思うが、考えを伺う。

**答弁** 施設の老朽化、改修の必要性をたくさん聞いています。スピード感をもった対応が出来て、皆様方に喜んでいただいている。少しずつ拡大する方向である。

(平岡 裕子 記)



■意見交換会で充実した話し合いを！



養生会 八柳良太郎 議員

納税の公平性を。

市長

収納体制の強化を図り、しっかりと取り組んでいく。

桜の管理とウソ対策を

**質問** 桜木内川堤の桜の管理について、老木の対処としては自然萌芽の手法でよいのか。

**答弁** 管理計画としては、伐採や植替えに頼るのではなく、生育環境を改善し治療することで樹勢を回復させることを基本指針として取り組んでいく。

**質問** 武家屋敷のシダレザクラにつて、紅葉シーズンまで落葉しないようにする対処の方法は。

**答弁** 病気の蔓延によるところが大きいので、樹木の状況をしっかりと確認しながら今後も消毒作業等を適時に行っていく。

**質問** 鷹の鳴き声による古城山の『ウソ』対策の結果は。

**答弁** 音響装置を設置して実施したが、根本的な打開策とはならず、研究が必要と感じている。

さらにその手法も含めて古城山での駆除の可能性を進めることが可能かどうかということを見極めていきたいと考えている。

**質問** 武家屋敷通りポケットパーク内の公衆トイレについて、誘導看板、設置図等も含め改善の必要があると思うか。

**答弁** 施設の配置図については既に掲示してある。トイレは、今年度改修工事設計業務を行い、来年度に国の補助金の活用を検討し着手していきたい。

自主財源の確保と納税の公平性を

**質問** 入湯税は目的税であるが、使い道については目的を明示すべきで、その扱いについて延滞は認めずに即刻納税させるべきものと考えているがどうか。ウソ対策やテングス病対策の財源として入湯税を活用し、積極的な観光振興を図ってはどうか。

**答弁** 毎年度当初予算の概要版で入湯税が充てられる経費ということとで予定している目的を公表している。決算においても入湯税が充てられた経費として同様に市のホームページに掲載し公表している。入湯税は即時納税すべきものと認識しているため、これまで以上に目的や制度を周知徹底し、未納額が発生しないよう指導し、税務課、収納推進課が連携し納税に努める

よう頑張りたい。

目的税としての入湯税を市の重要な財源として今後どのような形で使うかということについては検討していきたい。

**質問** 平成28年度決算は不認定で、その理由として議会から指摘したことは、税の未収金が異常であることと、給食費の収入未済額が異常であること等であったが、平成26年度に債権管理基本方針と債権管理マニュアルが策定された中で、徴収率は向上していないがその原因は何なのか。

**答弁** 債権管理基本方針並びに債権管理マニュアルは、統一的な債権管理が行われるように債権の発生から消滅に至るプロセスとそれぞれの段階で講ずる措置などを詳細にわ



■新設された収納推進課

かりやすく定めたものである。マニュアル自体に問題はないものであるが、実践するためのマンパワー不足、職員体制の未整備からのマニュアル不履行等により徴収率向上に結び付かなかつたと反省している。そのことを踏まえ、収納推進課の設置等で収納体制の強化を図って今後はしっかりと取り組んでいく。

**質問** 徴収率と収入未済に対する措置状況について、合併当時90%近い徴収率であったものが平成23年度には81%台になり、以後改善されずに放置されてきた原因はなぜなのか。納税の公平性に欠けるのではないか。

**答弁** 滞納繰越額は年々増加傾向が続いているために、徴収率の顕著な向上にはつながらない要因となつておりと分析している。

税の公平性を確保するために納付環境の整備を進めながらこれまで以上に納付対策を強化し徴収率の向上に取り組むたい。

(真崎寿浩記)

# 総務文教常任委員会

## 市議会改選後新たな委員で補正予算などを審査

4月の市議会改選後、総務文教常任委員も新しいメンバーとなりスタートしています。6月定例会では、総務部門、教育委員会部門に関連する補正予算などが審査され、様々な角度からの議論が行われております。

主な内容

車両維持管理費	216万円
市民バスの購入費の追加予算。 平成30年度当初予算には1,570万円を計上しているが、入札不調により補正	
定住対策新婚世帯家賃助成事業補助金	234万2千円
新婚世帯のアパート等の賃借に対する助成金。利用者の増加により追加補正	
次世代定住支援事業費補助金	810万円
市内在住の若い夫婦や移住者の住宅新築に対する助成金。利用者増により追加補正	
仙北市自主防災組織が実施する災害復旧事業費補助金	50万円
地域の自主防災組織が行う災害復旧事業に対する補助制度の新設。補助額は上限10万円	



更新される市民バス

**質問** 市民バスの更新については、当初の予算で十分な内容のバスを購入できるとの説明であったにも関わらずなぜ今回予算を追加しなければならなかったのか。

**答弁** 当初予算作成時には過去に購入したバスの金額（1,470万円）を参考にしたが、入札を

ここが知りたい  
議論のポイント  
平成30年度補正予算  
主な質疑

行おうとしたところ指名した3社が全て辞退し不調となった。理由としては、新型バスのモデルチェンジ等により金額が上がっていたことが挙げられる。見積りが甘かった。市民が長期間利用するバスであるため、グレードは落とさず、充実した装備のものを購入するため予算を追加したい。

**質問** 定住関連事業の実績と今後の展開については。

**答弁** 新婚世帯へのアパート賃借料等の補助や新築補助の利用者は年々増加しており、事業の効果が見られる。これらは市単独の事業であるが、市では若い世代向けにPR冊子を作成しその周知に努めている。また、住宅リフォーム制度と合わせ、事業者へもチラシを配布するなどしている。今後、成人式など各種イベントにおいても積極的に制度を宣伝し、定住・移住につながるよう努力

### 生保内財産区 特別会計補正予算を可決

<b>歳入</b>	
生産物売払収入	1,287万9千円
<b>歳出</b>	
分収林交付金	1,030万4千円
予備費	257万5千円

したいと考えている。

**質問** 自主防災組織が行う災害復旧事業への新たな補助制度を創設することだが、はたして補助額10万円が十分と言えるのか。

**答弁** 自主防災組織が行う災害復旧事業としては大規模なものは想定していないため上限を10万円と設定したが、今後は、より柔軟に対応したい。そもそも市内に自主防災組織が少ないため、この制度が組織立上げのきっかけとなるよう支援を強めたい。

# 市民福祉常任委員会

## 放課後児童クラブ(西木マロンクラブ)利用者増加のため移設へ

市民福祉常任委員会は、市議会改選後新たな委員会構成となりスタートしています。6月定例会では、西明寺小学校で行われている放課後児童クラブ(マロンクラブ)が、子供達の増加に伴い、旧JA大豆センターに移転する運びとなり、それに関連し倉庫の賃借料や修繕費等が審査されました。

主な内容	マロンクラブ施設整備事業	201万円
	生活保護総務費	37万8千円
	健康増進事業費	27万3千円

生活保護法の改定によるシステム改修費

健康寿命延伸に向けた健康ポイント事業



■マロンクラブが移転設置される  
旧JA大豆センター(西木町六本杉)

### 病院事業会計補正予算を可決

～窓口・レセプト業務を委託から病院直営へ～

市立角館総合病院事業費用 △1,106万6千円

市立角館総合病院では窓口やレセプト業務などをこれまで業者委託しておりましたが、この程契約期間満了に伴い、プロポーザルによる選定を実施したところ、応募業者3社が全て辞退したため、現在委託業者に雇用されている従業員を引き継ぎ、病院直営で業務を行うための補正予算が提案され、審査の結果可決しております。

### ここが知りたい 議論のポイント

平成30年度補正予算主な質疑

**質問** 放課後クラブ支援員の勤務時間、賃金の待遇はどうか。

**答弁** 勤務時間は、14時30分～18時30分までの4時間で、支援補助で時給760円、2年間の経験や研修で

**質問** 健康寿命延伸の環境として健康ポイント事業を導入するが、その内容は

**答弁** 生活保護世帯数は334世帯、450人が受給している。一昨年は350世帯を超えたが近年は減少傾向である。

**質問** 健康寿命延伸の環境として健康ポイント事業を導入するが、その内容は

**答弁** 特定検診受診者や献血者などにポイントを付与し、入浴券・健康器具などを贈呈する。

**質問** 市立角館病院の窓口業務等について、受託予定業者の辞退により直営を選択した理由は何か。

**答弁** 時期的に他の業者選定の余地がなく、病院経営に支障をきたす恐れがあることから直営を選択した。

段階的に賃金上がり、15年以上で時給1,000円となる。

**質問** 市内の生活保護世帯の内訳は。

**答弁** 生活保護世帯数は334世帯、450人が受給している。一昨年は350世帯を超えたが近年は減少傾向である。

**答弁** 特定検診受診者や献血者などにポイントを付与し、入浴券・健康器具などを贈呈する。

**質問** 市立角館病院の窓口業務等について、受託予定業者の辞退により直営を選択した理由は何か。

**答弁** 時期的に他の業者選定の余地がなく、病院経営に支障をきたす恐れがあることから直営を選択した。

# 産業建設常任委員会

## 東北観光復興対策交付金 事業不採択のため大幅減額

市議会改選後初の産業建設常任委員会が開催され、新たなメンバーで一般会計補正予算などが審査されました。一般会計補正予算では、当初見込んでいた国の交付金（東北観光復興対策交付金）が事業の全部または一部が不採択となったことにより大幅減額されるなどの内容が計上されており、今後の広域観光推進事業の実施に課題を残す内容となっており、より一層の工夫が求められます。

主な内容

農業用マルチコプター導入事業費等補助金 226万円

農業用マルチコプターの保有者又は1年以内に保有が見込まれる者に対して、農業用ヘリコプターオペレーター技能認定証取得費用及び機材購入の助成金の増額

花葉館施設整備事業費 227万円

花葉館の温水ポンプ、浄化槽、消防設備等の修繕に要する費用

農業施設災害復旧事業費 566万円

大雨による農地・農業施設に係る災害復旧経費への補助金

公共土木施設災害復旧事業費 3,733万円

大雨による市道、河川及び河川公園の災害復旧の費用。

観光復興交付金関連事業 △2,535万円

広域観光事業の財源として予定していた東北観光復興交付金が削減されたための減額補正予算

機種は協定先の標準機を対象としているが、他のメーカーでも性能アップした機種を発売しているの  
で、将来的には補助体系に含める想定のもと、長期的展望に立った取り組みが必要と  
考えている。



■豪雨被害が繰り返される  
松木内川河川公園（西木町）

い。補助を進めていきたい。

**質問** マルチコプターには様々な機種があり、性能にも違いがあるので、農地の面積や形状などにより使い分けが必要と考えるが、市民が利用しやすい補助制度にするために今後はどうにしていきたいのか。

答弁 現在は、新たにマルチコプターでの圃場の薬剤散布の体系を整えたい方々に補助を進めていきたい。

ここで知りた  
議論のポイント

平成30年度補正予算 主な質疑

答弁 今回、広域連携によるインバウンド事業を計画したが、関係するすべての自治体で当該交付金の削減となってしまう。冬期に仙台空港から田沢湖、雫石に誘客するバス運行は中止することになるが、その他の事業については、連携する市町間とも協議を重ね、東北観光復興対策交付金に頼らない予算の範囲内において展開していきたい。

用語解説

・インバウンド事業…外国人の訪日旅行を受け入れる事業のこと

# 「クニマス未来館」設計違算訴訟

続く訴訟 市の主張を強化へ  
締結済の覚書を法律上の和解として議決

## 「クニマス未来館建設」設計違算問題

### 発覚から現在までの経緯

- 平成27年4月23日 仙北市と(株)渡辺佐文建築設計事務所(代表取締役 池田匠 秋田市)との間で、「田沢湖クニマス未来館建築実施設計図書作成業務委託契約」締結
- 平成27年11月30日 実施設計業務完了により設計図書が納品される
- 平成28年5月24日 田沢湖クニマス未来館新築工事 入札公告
- 平成28年6月13日 新築工事の応札予定業者からの指摘で、**渡辺佐文建築設計事務所が実施した設計に多数箇所の計上漏れ、違算が発覚**
- 平成28年6月14日 予定されていた入札を中止にすることを決定
- 平成28年8月26日 **市と設計業者との間で、設計違算によって市が受けた損害について設計事務所が賠償するという内容の覚書を締結(損害賠償額 2,102万円)**

### 平成28年8月26日 損害賠償に関する「覚書」締結

仙北市

渡辺佐文建築設計事務所

平成28年11月17日 反論に対する反論書

平成28年12月 市議会で損害賠償金の歳入予算可決

平成29年9月12日 **市議会において訴えの提起について  
全会一致で可決**

平成29年9月21日 **秋田地方裁判所大曲支部に提訴**

**平成28年10月11日 覚書の履行を拒否**

平成28年11月7日 弁護士から反論書

### 【公判を有利に進めるためには議決が必要】

今後の公判を有利に進めるためには、平成28年8月26日締結の「覚書」を、地方自治法に基づく「和解」として、遡って議決する必要あり

**平成30年6月定例会 「覚書」の締結を「和解」とする議案を全会一致で可決**

# 大曲仙北広域消防本部・大曲消防署新庁舎が完成

大曲仙北広域市町村圏組合の防災拠点施設である消防本部・大曲消防署の新庁舎が完成し、6月4日に完成披露式が行われました。鉄骨造地上3F建て（一部4F）、床面積4,300.82㎡で、最新設備の119番指令センターや指揮本部室、救急シミュレーション室、仮眠室、屋内訓練スペース等の充実した施設で地域防災の拠点にもなります。基礎部分には、通常の1.5倍の設計で、地下30mの深さまで鉄筋を打ち込み指令センターの床は免震構造となっているそうです。

職員の勤務は3交替制で、日夜、圏内の市民の生命と財産を守って頂いております。災害時にも対応できる安全・安心な新庁舎の完成に喜びの歓声が上がりました。

7月より既存消防庁舎解体工事が始まり、9月からは訓練棟建設工事。平成31年3月から外構工事、平成31年5月に竣工の予定です。



■指令センター前で説明する千葉通信指令課長



■消防本部事務室3F



■新庁舎完成披露テープカットの様子



■再任の挨拶をする倉橋副市長

◎仙北市副市長  
倉橋 典夫 (65歳)  
田沢湖生保内字下手倉31番地1

平成30年6月議会

人事案件 (敬称略)

◎人権擁護委員

伊藤 政和 (60歳)  
田沢湖小松字二枚橋38番地2

築田 正 (62歳)  
田沢湖田沢字沼田106番地

◎田沢財産区管理委員  
浦山 清悦 (72歳)  
田沢湖田沢字蟹沢口23番地1

大石温基（前市議会議員）さんと阿部則比古議員は、通算10年以上、小林幸悦議員と真崎寿浩議員が通算15年以上（共に旧市町村時代を含む）市政振興に寄与された功績が称えられ、全国市議会議長会より表彰されました。

また、荒木田俊一議員（前副議長4年）と青柳宗五郎議員（副議長4年、議長4年）が、同会より特別表彰を受賞しました。大変おめでとうございます。



■表彰を受ける荒木田議員

全国市議会議長会表彰

## 初議会を終えて

門脇 晃幸

新米議員の初議会、それが総てが新鮮で、場内の方々の一挙手一投足に注目し、ただ時間が経過した（もちろん、議案はしっかりと審議）感じでした。

又、全員協議会、委員会審議等で初めて質問や意見を述べ、要領を得た内容か不安でもありました。

今後は慣れ過ぎず謙虚さを保ち、議論をしっかりと行い、より佳き仙北市を目指し努力してまいります。

高橋 輝彦

今年の4月までは一般市民でしたが、6月の定例会では市民の代表として早々に一般質問に立ちました。常任委員会で対応できる質問もありましたが、市民の皆様の声に対する市長の答弁を皆様にお伝えたいという強い思いがありました。

初めての議会を通じて仙北市の多くの課題を再認識しましたが、市民の皆様の声を市政に反映させることが市議会議員の使命だと思っておりますので、今後も皆様の色々なご意見をお聞かせください！

武藤 義彦

この度は、市民の皆様のご支援により市議会で働かせて頂くことになりました。改めて感謝を申し上げます。市議会議員になって三カ月が過ぎようとしています。数カ月前までは、参与席で議員の皆様と対峙しておりましたが、初議会中は、議場に入る度に嫌な汗をかいている自分がいきました。新人である気持ちが忘れることなく、住みよい地域づくりに励みたいと考えております。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

小木田 隆

今回出馬表明から僅か一か月もない選挙期間の中で皆様のご支援により初当選させて頂き、無事五月の臨時議会、六月の定例会を終えることが出来ました。七年前には市役所職員としての立場で議会に臨んでいましたが、議員として初の議会を経験して最初は戸惑いながらも最後には落ち着いてきました。今回は一般質問の機会はありませんでした。九月に順番にあたっておりますので市民の声を届けられるような質問を考えていますのでどうか今後とも皆さんの声を聞かせてください。宜しくお願いします。

# 控室

## 女性議員増を

今年5月16日、地方選挙や国政選挙で各政党に対し候補者数をできる限り男女均等にするように促す法律「政治分野の男女共同参画推進法」が国会で成立した。

人口は女性が半分なのに、議員は男性に偏っている現状は民主主義の質を損なうと指摘する専門家もいる。日本の女性議員は国際的に見ても少

なく、中国や韓国よりも低い。かつて、家計に占める国民健康保険税の負担が大きいので、納期を増やすことを提案したことがあったが問題視されなかった。税金を納めるのは、妻だから男としては無頓着だ。と話した男性議員を思い出した。

女性が政治分野に活躍できれば社会のレベルアップになると言われるように、健康で人の手を煩わせることなくトイレに行きたい。そのために

も健康教室に通い、周りの人にも広めたいと願う高齢女性の声健康ポイント制導入に繋がった。

議員は、年齢、性別、職歴

など問わず多様な見地から議論に参加し政治を変えていく任務がある。政党にこだわると無所属議員が多い地方議会では難しい面もあるが、市民の声を聴く議員を目指したい。議員になって欲しい女性を周りから押し上げる体制づくりも必要だし当選した女性議員がきちんと働ける環境づくりも必要だ。

仙北市議会女性議員複数となるように、女性の皆さん一歩前へ進んでください。男性の皆さん押し上げてください。

(平岡 裕子 記)

## 編集後記

「議員の日常がこんなに忙しいとは思わなかった」とは、ある新人議員の声である。

定例会本会議や委員会の他に、地域行事や講演会、イベント、各種団体の総会に慶弔等々。多くの案内や出席依頼が来る。

出欠の選択を迫られる時も数多い。しかし、「市民の生の声は会合終了後の懇談の場にある」とは、先輩議員諸氏の言である。

社会の中で、まじめに働き、生活している多くの市民の声や市政に対する思いを直接聞く事は、懇親会の場の方が多いうように思う。直接現場の声を政策に行政に反映してい

ける現場直結の議員の心構えを忘れず、日常活動を強化していきたいものである。

さて、「市議会だより」も第51号の発行となりました。市民の皆さんに議会内容を見やすく、わかりやすく伝えていく事を念頭に、発行してまいります。

よろしく願ひします。

(熊谷 一夫 記)